

第4次小平市子ども読書活動推進計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

1 実施の概要

期間	令和元年11月22日（金）～12月23日（月）	
意見応募者数	3人（意見の件数 13件）	
提出の方法	持参	1人
	送付	1人
	ファックス	0人
	メール	0人
	市ホームページ	1人

2 意見等に対する対応状況

反映済み	0件
反映する	4件
反映しない	2件
参考意見	3件
その他	4件

3 意見等への対応

番号	意見等	検討結果	対応
1	図書館で開催している「おはなし会」への参加者の減少に対する、今後に向けた検討内容の記載がないので、平日だけでなく、土曜・日曜の開催といった日程の設定や内容について検討する必要がある旨を加筆してもよいのではないか。	P 8 (3) 行事内容の検討の文中に「平日だけでなく、土曜・日曜の開催について検討すること」を加筆します。	反映する
2	読書に関するアンケートの結果において、図書館の利用状況や行事への参加の状況など、地域によって差がみられたとありますが、具体的にはどのようなことでしょうか？	集計表には表示していませんが、P 3 4 のアンケートの間 1 8 市立図書館の利用カードを持っていますかの設問に対する回答で、近隣に図書館がない地域の小学校では、図書館の利用カードを持っていないという回答が比較的多くみられました。	その他
3	2018 年に実施された「国際学習到達度調査」の結果、日本は「読解力」が 15 位で、前回の 8 位から大きく順位を下げたとの報道があった。小平市でも子どもの読解力の低下に歯止めをかける取組をもっと積極的に行う姿勢が必要ではないでしょうか。	参考とさせていただきます。	参考意見
4	読書によって培われるのは、「想像力」ではないでしょうか。そして何より豊かになってほしいのも想像力です。ぜひ「想像力」の文言を計画の文中に加えてもらいたい。	P 1 1 「第 5 章 具体的な取組」の「1 家庭における読書活動の推進」の文中に「想像力」についても加筆します。	反映する

5	<p>図書館で開催している「絵本のへや」のあとにおはなし室を開放していると聞いているが、このことも具体的な取組として明記してはどうか。</p>	<p>P12「第5章 具体的な取組」の「1 家庭における読書活動の推進」「(5) おはなし室の開放」の説明文に加筆します。</p>	<p>反映する</p>
6	<p>図書館にある「おはなし室」は読み聞かせなどを行っているグループの「絵本選び」「本に関する打合せ」「読み方の練習」などに利用できることになっている。このことを本計画に明記してもらいたい。</p>	<p>個別の活動内容のため、本計画には改めて明記しません。</p>	<p>反映しない</p>
7	<p>学校図書館協力員が小・中学校に配置されたことで、学校図書館の環境が整備され、図書室が活気ある場所となりましたが、一方で協力員の業務に対する勤務時間の不足が問題となっている。学校図書館のさらなる充実のためには、学校司書の配置が必要と考えます。</p> <p>具体的な取組として、「協力員」の名称を「学校司書」に変更し、勤務時間を延長して雇用の改善を図り、学校司書としての役割を十分に発揮できる体制を整えるということを計画に盛り込んでもらいたい。</p>	<p>小平市の学校図書館協力員の採用資格は、司書又は司書教諭の資格を有しているか、あるいは図書館等での勤務経験があることとしています。</p> <p>一方で、「学校司書」は平成26年に学校図書館法の一部改正により明文化されたものの、その資格自体は法制化されておらず、各自治体によりその名称や採用要件が異なっているのが現状です。このような現状を踏まえ、学校図書館協力員の名称の変更を含め検討してまいります。</p>	<p>参考意見</p>

8	働く女性が増えて、保育園で過ごす子どもが増えている。保育園における読書活動の推進は、さらに重要性を増しているといえます。保育士に向けた読み聞かせのための研修や講座を積極的に実施することを計画に盛り込んでもらいたい。	P14 「(14) 保育園における読書活動の推進」を中心に考えており、本計画には明記しません。	反映しない
9	学校図書館担当教諭の資質向上の説明文において、「学校図書館司書教諭等連絡協議会」を開催する等と記載があるが、「等」には何が含まれているか。	学校図書館司書教諭連絡協議会の他、学校図書館に関わっていただいている図書ボランティアの交流会などを指しています。	その他
10	学校図書館協力員の研修は年6回開催と明記されているが、司書教諭に対する研修の回数の記載がないが、同程度に行われているか。	図書館は司書教諭に対する研修会は行っていませんが、国や東京都、全国学校図書館協議会などが開催する研修等の情報があれば、学校と情報共有してまいります。	その他
11	「学校司書機能」という言葉は聞いたことがないが、これは「学習センター」・「読書センター」・「情報センター」の3つの機能が十分に発揮されるよう、学校司書や司書教諭等の学校図書館担当職員が活動を行うということと捉えてよいか。	P13 (9) の「学校司書機能」を「学校図書館の機能」に修正します。	反映する

1 2	<p>10代の読書離れについて、読書に関するアンケートの結果を踏まえて具体的な取組の必要性を認識されているようですが、第5章の具体的な取組では「ティーンズ委員会の開催」が挙げられているのみで十分かどうかとを感じる。また、「情報活用の支援」とはどんな支援なのか。</p>	<p>子ども同士が本を勧め合う環境づくりとして、ティーンズ委員会は有効な取組と考えています。</p> <p>「情報活用の支援」とは、現在さまざまなSNSが利用される中、情報を選択するスキルや情報を活用する際に知っておくべきことなどについての認識を高めるための講座の開催などを考えています。</p>	その他
1 3	<p><特別な支援を必要とする子どもへの支援について> 小学生の子どもがディスレクシアです。学校では、教科書はマルチメディアデイジー教科書を使っていますが、図書館の授業では読める本がありませんでした。</p> <p>そこで、図書館で借りたマルチメディアデイジー図書を、デイジー教科書と同じようにiPadに入れて持っていくことを検討しましたが、CDでの貸出のためiPadにデータを移すことができませんでした。また、タブレット機器にダウンロードした状態での貸出をご検討いただきましたが、図書館にあるタブレット機器が、古くて画面も小さく、デイジー図書には不向きでした。</p> <p>日本障害者リハビリテーション協会に相談しましたら、来年開始予定のデイジー文庫のモニターをできることになり、早速、教科書と同様にiPadにダウンロードして図書館の授業に持って行ったところ、帰宅した子の第一声が「図書館の時間が蘇ったよ！」でした。</p>	<p>P16「(13) 特別な支援を必要とする子どもへの支援」にあるように、ディスレクシアの子どもに向けた読書支援に努めてまいります。</p> <p>デイジー図書の貸出の際には、デイジー図書音声再生専用機の貸出も行っていますが、今後ICTを活用した資料の提供も研究してまいります。</p>	参考意見

	<p>ディスレクシアの子には ICT で解決できる問題が多いと感じます。視覚障害とディスレクシアでは、求めている支援や活用できるものに共通点もありますが違いも多く、ぜひ当事者の声を聞いていただければと思います。</p> <p>デイジー文庫については、提供が開始されればデータは無償で入手できますが、再生するための機器は、現状では個人で用意しなくてはなりません。また、図書館でマルチメディアデイジー図書を借りて自宅で利用する際にも機器は用意しなくてはなりません。ぜひ一般の本と同じように「すぐ読める」状態（機器と一緒に）での提供をお願いしたいです。</p> <p>図書館は、幼い頃は絵本の読み聞かせが好きで大好きな場所でした。今は読みたくても読めない本ばかりでイライラすると言いますが、家ではオーディオブックで時間があれば読書を楽しんでいます。図書館が、字が読めない子どもにも本の楽しさを与えてくれる場であることを期待します。</p> <p>最後に、学校での読書週間などでの取り組みでは、読むことが困難な子も辛い思いをせず参加できるような配慮をお願いしたいです。</p>		
--	--	--	--